

◆実践校名 和泉市立和気小学校 和泉市立青葉はつが野小学校 和泉市立北松尾小学校
 泉大津市立穴師小学校 泉大津市立条南小学校

◆主題名 友達と仲良く ◆道徳の内容 B－友情・信頼

◆ねらい 「やっぱり、りすさんがいたほうがいいね。」と気付いたあとのかめ、白鳥、あひるの会話や4匹でいる場면을想像することを通して、友達の気持ちを考え、友達と助け合って仲良くしようとする道徳的心情を育てる。

◎ 中心的な発問

島で遊んでいる時、3匹はどんなことを考えていたでしょうか。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	○友達と遊んだときのことを思い出す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> お友達と遊んでいて、楽しかったことや困ったことはありましたか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おにごっこが楽しかった。 ・ドッジボールでボールの取り合いでけんかになった。 ・なわとびの跳び方を○○さんに教えてもらった。 	○遊んだ時に、楽しかったことや困ったことなどを思い出させ、本時では、友達とのかかわりについて考えることを示す。
展開	○資料を範読する。 ○りすさんに頼まれた時の3匹が考えている気持ちを話し合う。 ◎島で遊んでいるときの3匹が考えていたことをワークシート(吹き出し)に書いて発表、話し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> りすさんが「ぼくもいしょにつれていってね。」と言った時、3匹はどんなことを考えていたでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・泳げないから無理だよ。 ・おぼれてしまうよ。 ・泳げないから島へは行けないよ。 ・かわいそうだけど、だめかな。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 島で遊んでいる時、3匹はどんなことを考えていたでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なんか楽しくないな。 ・りすさんにいやなことを言ってしまったな。 ・りすさんを置いてきて悪かったな。 ・りすさんがいたらもっと楽しいのに。 ・りすさん、どうしているかな。 ・りすさんにあやまろう。 ・どうすればりすさんと一緒に遊べるかな。 ・今度はりすさんも連れてきてあげよう。 	○資料の内容がわかりやすいように範読する。 ○登場人物、出来事、状況(りすが泳げないこと)を確認する。 ○自分たちのことを優先させて、りすの気持ちを考えていないことを押さえる。 ○追発問で、なぜ楽しくなかったのか考えさせる。

<評価>

- ・仲間はずれにしてしまった3匹の心情を考えることができるか。
- ・りすの気持ちを考えることができるか。
- ・りすに対する思いを考えることができるか

<評価方法>

- ・ワークシート
- ・発言、つぶやき

	<p>○みんなで島へ行くときの3匹が考えていることを話し合う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>りすさんも一緒に島へ行ったとき、3匹はどんなことを考えていたでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんも一緒に行けてうれしいな。 ・やっぱりみんなで遊ぶ方が楽しいな。 ・昨日はごめんね。 ・りすさん、うれしそうだな。 ・かめさん、りすさんを背中に乗せてくれてありがとう。 ・いい考えだよ。すごいな、かめさん。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価をいかした支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3匹の気持ちについての発言を元にりすに対する思いを考えさせる。 ・挿絵を見ながら、りすだけでなく3匹もにこにこしていることに気付かせる。 </div>
<p>終末</p>	<p>○自分の生活をふり返り、道徳的価値を深める。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>友達と仲良くするためには、どうすればいいでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊ぼうって声をかける。 ・友達の気持ちを考えてあげる。 ・やさしくする。 ・けんかをしない。 ・意地悪をしない。 ・困っている人を助ける。 	<p>○自分の生活をふり返り、友達と仲良くするにはどうすればよいか話し合い、実践意欲を育てる。</p>

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

成果・・・役割分担をして内容理解に努めた。動作化をすると理解しやすい。

心の変化を吹き出しに書かせた。また、心情を問う場面では、多方面での意見が出た。

追発問をすることによって、子どものつぶやきなどから深めることにもつながった。

発問に対しても「3匹の心情について」「りすさんの心情について」「りすさんと一緒に遊ぶ今後のことについて」などの発言を想定していくことによって、子どもたちの発言について柔軟に対応でき、深めるための次の発問を子どもたちに投げかけることができた。

課題・・・背景、内容理解に時間がかかり、理解させるのが難しい。

範読で内容把握できるものでなければならない。

1時間では、的を絞りにくい。

→宿題、読み聞かせで事前に知らせるべきなのか。

授業の時には、困っている人を助けるなどの心情に気付くことができたが、日々の生活でも継続して子どもたちに意識させていく声かけが必要である。

○道徳の評価についての提言

●多様な面で評価するために

・書くことが得意な子、思ったことが言える子は評価がしやすいが、言えるか、書けるかだけではなく、多様な面で評価することが必要だと考える。評価をする際には、日頃の様子や家庭との連携を大切に、長いスパンで個の成長をみていき、評価につなげていくようにする。「道徳の時間」だけではなく、それ以外の時間も『道徳』として見ていくことが大切である。

・そのために、教師側には、日頃の子どもの様子をきめ細かく観察していくことが大切になってくる。今後、教師の【子どもの様子を見ていく力】をよりつけていく必要があると考える。

●子どもの個人内評価をうながす

・“日頃の積み重ね” → “良いことはどんどん伝える” → “子ども自身が肯定的な自己評価をできるようになる” という風に成長させていくことができれば理想的だと考える。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

中心発問の場面での発言や追発問から

- ・「しょうがない」「りすさんは泳げないから」という発言があったので、「もし、みんなが、りすさんだったらどうしますか。」という発問を投げかけると「いやだ」「連れて行ってほしい」という発言がでてきた。その結果、「3人（3びき）でいても楽しくない」「連れてきてあげよう」という発言をする児童が多くなった。また、発言できなかった児童でもワークシートでは「楽しくない」と書いていた。
- ・追発問で、「では、島へみんな遊びに行ったときの気持ちはどうだったかな。」と問いかけると、「ぼかぼかした」と発言した児童がいた。その発言から、みんなで遊ぶことが楽しい、友達の気持ちを考えて遊ぼうという考えを深めた児童が多くなった。

○成果と課題

成果・・・「およげない りすさん」の主発問において、今まで相手の気持ちを考えていなかった児童が多かったが、「みんなで遊んだ方が楽しい。」「りすさんに悪いな。」といった相手を思いやる発言が多くなった。また、じっくり友だちの意見を聞いて、3匹の立場に立った意見や、反対に、りすさんの立場に立った意見を出せるようになった。

その中には、「これからみんなで遊ぶようにする。」「みんなで遊べることを考える・」というような実生活に立ち返った意見も出てきた。

課題・・・友だちと仲良くすることの大切さや、友情、信頼について考え、その内容に沿った発表をする児童が多くなったが、行動に移すことが出来ていない児童もいた。そういった児童には、この授業の内容をもう一度考えさせ、日頃の学校生活においても「みんなで遊べることを考えよう。」というような声かけをする対応が必要である。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

○子どもの振り返り

- ・りすさんが、きもちよくなかよくなれてよかった。
- ・さいごは、みんななかよくしたね。
- ・ひとにいじわるをしたらあかんってわかった。
- ・もういじわるしたくない。

◆参考資料

- ・掲示物



実践校名（和泉市立和気小学校）

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

☆中心発問についてのワークシートや発言から、3つのパターンに分類した。

3匹の心情について考えた児童

- ・かめさんがにっこりしていない。（なかなかワークシートが書けなかったので、挿絵を見て、何か気づくことはあるかを問いかけた。どうして、にっこりしていないのかは、自分では答えられなかったが、友だちの発表を聞いた後、最後のふりかえりでは、自分は友だちに「入れて。」といわれたら、「いいよ。」って言うと言っていた。）
 - ・りすさんがいないとたのしくない。
 - ・りすさんをつれてきたら、よかった。
 - ・りすさんがいたほうがたのしい。
 - ・りすさんがいないから、たのしくないのかな。
 - ・すべりだいたのしくないな。りすさんがいたら、たのしいのに。
 - ・りすさんとぞうのどんねるにいっしょにはいりたかったなあ。
- （りすさんがいないと楽しくない。という意見が多かったので、「どうして、たのしくないの？」と問いかけると、みんなで遊んだほうが楽しいからという意見と、りすさんを仲間はずれにして、いやなことをいったからという意見が出てきた。）

りすさんの心情について考えた児童

- ・りすさんいまごろなにしてるかな。
- ・りすさんひとりぼっちやからかわいそうやから、ごめんねっていおう。いっしょにあそんでもらおう。りすさんごめんね。こんどから（「だめ。」って）いわないからね。

次からはりすさんも一緒に遊ぶために、今後のことを考えた児童

- ・（3びきの会話）「ぜんぜんたのしくないな。」「もうおうちにかえる。」「いっかいらすさんさそってみる。」「でも、りすさんおよげないのに、どうやってここによぶん。」「かえるときにかんがえよう。」「りすさんもきたらよかったな。あしたは、しまにつれてってあげよう。こんなたのしくない。かめのせなかにのせたらよかった。」「りすさんもいいよっていつてあげたらよかったな。あしたはりすさんもつれてこようかな。かわのところはぼくが（かめ）やるよ。」「りすさんおよげないなあ。りすさんもしまにいけるようになにかかんがえてあげよう。」

☆最後のふりかえりで出た意見

- ・ともだちにいれてっていわれたら、いいよっていう。
- ・もしけんかしたら、そうだんをする。
- ・クラスぜんいんでちからをあわせる。
- ・りすさんは、ふねでおいかけたらいいのになあとおもった。
- ・（みんなができるあそびを）かんがえてから、あそぶ。みんながいいっていうようにあそぶ。

○成果と課題

- ・ワークシートで思っていることを書きやすい児童やワークシートに書くことは苦手だが、発言では自分の思いを言える児童、どちらも苦手な個別に声かけが必要な児童など、様々なのでワークシートだけではなく、いろいろな面で評価する必要があると思いました。
- ・この授業だけでの評価では、道徳の評価をつけるのは難しいと思いました。この授業での子どもたちの様子や発言などをふまえて、今後、子どもたちが友だちと関わる様子を見ていきたいと思います。

実践校名（和泉立青葉はつが野小学校）

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

☆中心発問の場面の発言の様子や内容から

- ・「およげない。」という理由でりすをおいてきた、あひる、かめ、白鳥たちの気持ちを、吹き出しで表現させた。

☆登場人物だけでなく、自分の視点で話の場面を考えさせる記述から

- ・登場人物の気持ちを考えることに加えて、自分だったら、りすと一緒に遊ぶためにどんな方法をとるかということも考えさせた。「うきわで引っ張っていく。」「自分の背中に乗せてあげる。」「島に行かずにりすと遊ぶ。」など、自分なりの方法を考えていた。

○成果と課題

この授業のワークシートだけでなく、日々の生活の中で、一人でいる子や困っている子がいたら、自分はどうするのかを考えさせた。また、友達と仲良くする方法を考えたり、助けたりする子がいれば他の子たちにも紹介した。そのような取り組みを続けることで、行動に移せる子を増やしていきたい。そして、その行動をその都度評価していくことが大切だと考えている。

実践校名（和泉市立北松尾小学校）

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

中心発問の「島で遊んでいるとき、3匹はどんなことを考えていたのでしょうか。」で、最初の子どもの反応は「りすがいないから楽しくない。」がほとんどだった。そこで、りすに対する思いを考えさせたかったので、支援として「今ごろりすさんはどうしていると思う。」と問いかけた。すると、「りすさんに悪いことしたなあ。」と、初めてりすへ気持ちが向いて発言する子が出てきた。さらに、「つれてきてあげたいけど・・・どうしたらいいんだろう。」と、心の中で葛藤している子もみられた。

今の時点での子どもたちは、まだまだ自分の気持ち中心であり、相手に気持ちが向くのはごくわずかであるとわかった。ワークシートの吹き出しの内容においては、自分たちのしたことを反省できているか、相手の気持ちを考えられているか、相手の気持ちを考えて行動しようとしているかで評価した。

○成果と課題

みんなで遊ぶ方が楽しいとか、困っている人を助けてあげるなど、友達の大切さや困っている友達を心配し、助け合っていこうとする心情に気づくことができた。だが、実際の生活場面では、自分の思いや都合ばかりが先に立ち、うまく友達とかかわれずにけんかになったり、ひとりぼっちになったりしてしまう様子が見られる。「友達の気持ちを考えて」を、日々の生活でも続けて指導していきたい。

実践校名（泉大津市立穴師小学校）

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

【評価計画】

- ①仲間外れにしてしまった3匹の心情を考えることができているか。
- ②りすの気持ちを考えることができているか。
- ③りすに対する思いを考えることができているか。

（子どもの姿）

中心発問で、「楽しいけど、りすさんと遊んだらもっと楽しいな。」「放って行ってかわいそうだったな。」「りすさん嫌な風に思っているだろうな。りすさん心配だな。」「りすさんとやっぱり遊びたい。」など、大半の児童が、3匹やりすの立場に立って気持ちを考えることができていた。

（行った支援）

普段の「書く」取り組みにより素直に自分の気持ちを書き出すことができるようになっていた。書くことが苦手な子どもには直接聞くなどして考えを引き出すよう支援を行った。

○成果と課題

《成果》

- ・他の教科などでも、吹き出しやホワイトボードを使って気持ちを考える取り組みをしてきていたので、素直に自分の気持ちを書き出すことができていた。
- ・グループで意見を考えたことで、自分では意見をまとめきれなかった子どものヒントとなり、振り返りの際に自分なりに考えることができていた。

《課題》

- ・お話の内容理解に時間がかかり、肝心の中心発問・振り返りを考える時間が少なくなってしまうことが課題だと考える。絵を提示することで手助けになっていたが、聞きなれない言葉などを理解させるのに、事前に話を読ませておくか、もう1時間使うなど、何かしらの手立てが必要だと感じた。

◆評価に用いた資料サンプル

およげないりすさん
なまえ()

☆かめさんがこられなくなったとき、あなたならどうしますか？

かめさんおせわもすこして
かめさんがひとりだとさみしそ
うだからかめさんのいえでしずかにあそぶ。

そうするゆゆう

かめさんがひとりだと
さみしそうだから。



およげないりすさん
なまえ()

☆かめさんがこられなくなったとき、あなたならどうしますか？

三にんできょうよくして小さい
ふねをつくる

そうするゆゆう

かめさんがいなくなると
から



およげないりすさん
なまえ()

☆かめさんがこられなくなったとき、あなたならどうしますか？

かめさんのいえにいてだいじょう
ぶ、てうたあげる。

そうするゆゆう

かめさんかわいそうだが
は



およげないりすさん
なまえ()

☆かめさんがこられなくなったとき、あなたならどうしますか？

はくちうにのる。

そうするゆゆう

はねでそらをとべるから。



実践校名 (泉大津市立条南小学校)